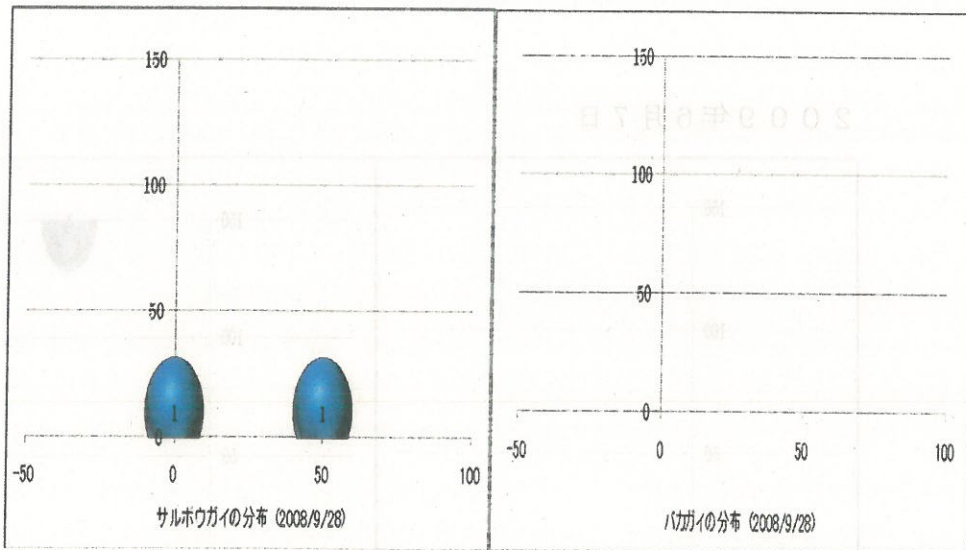
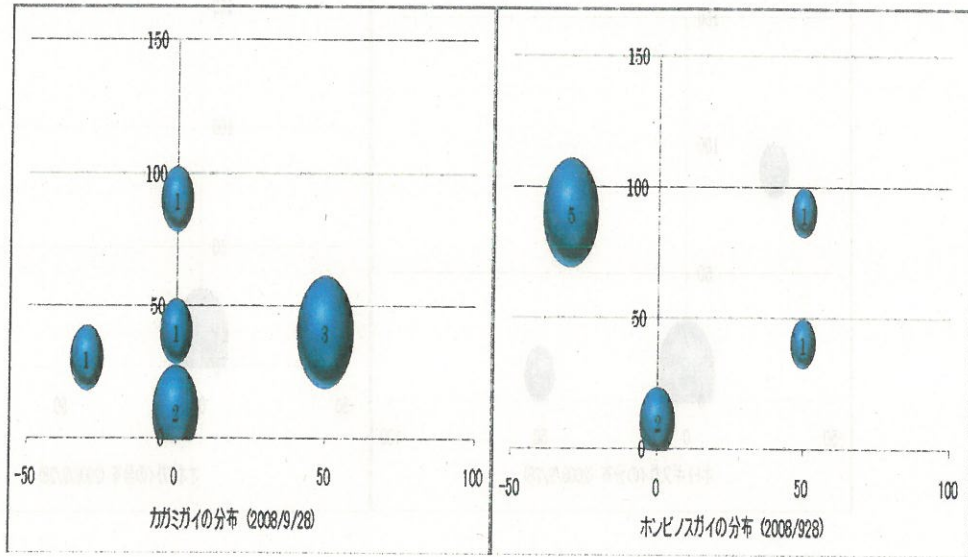
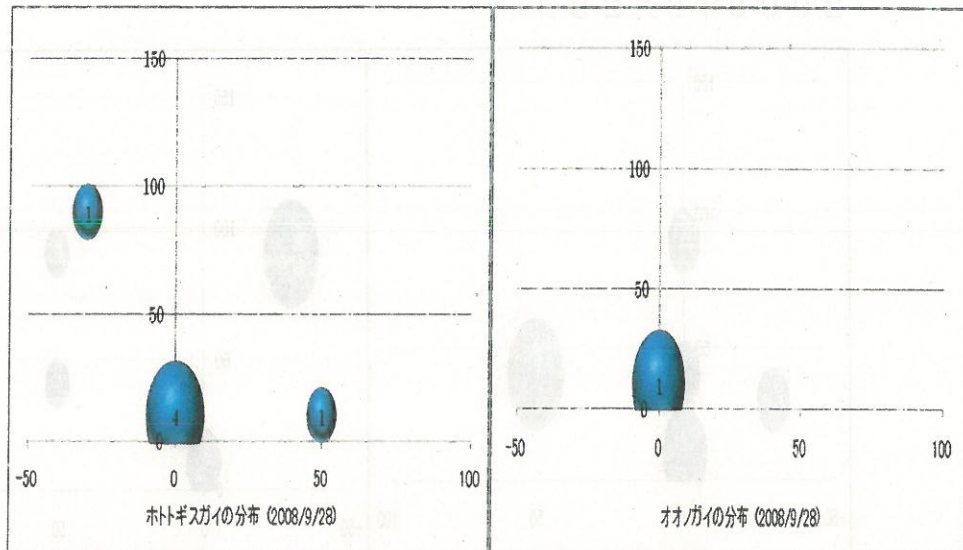
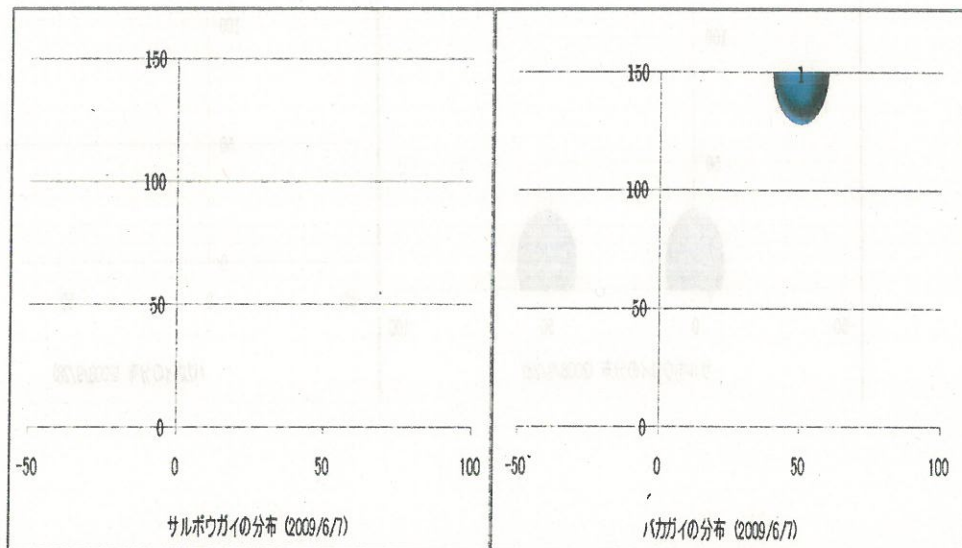


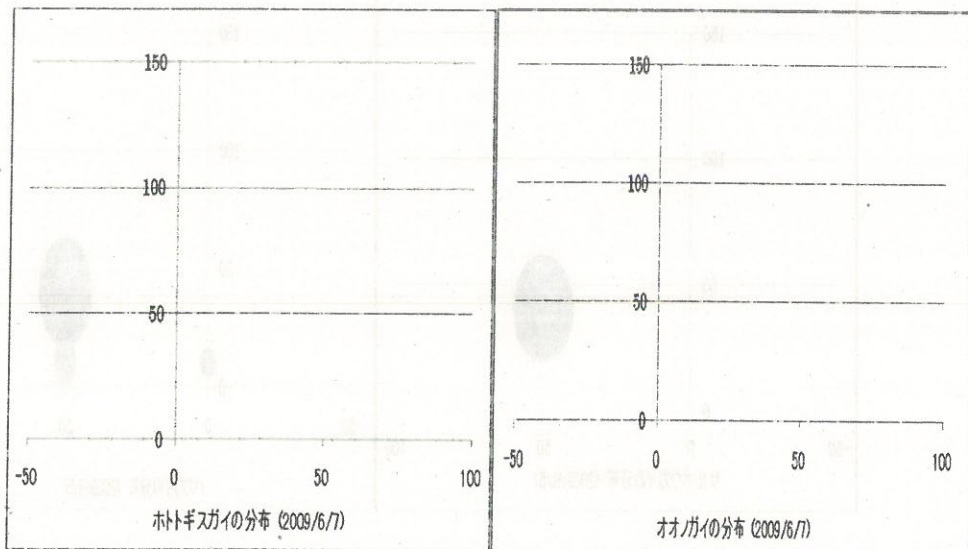
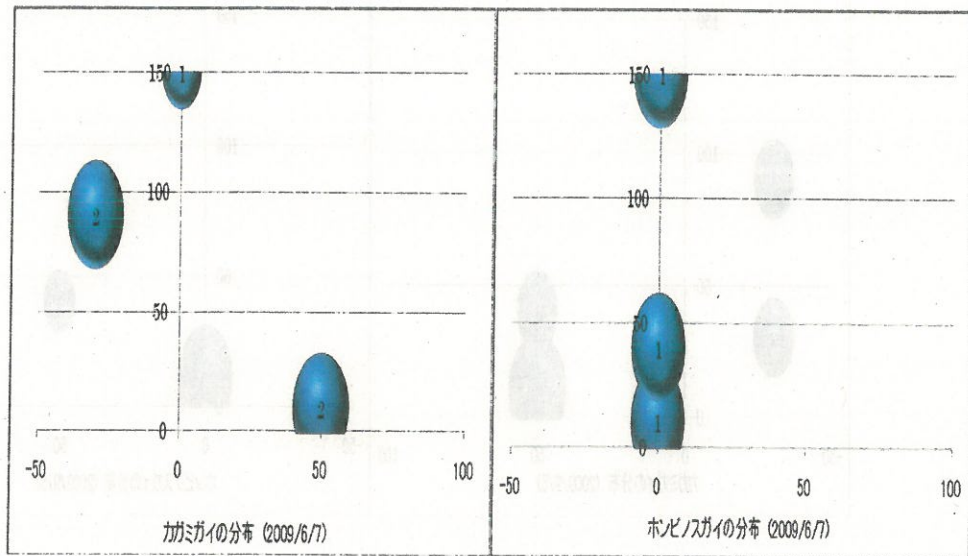
2008年9月28日



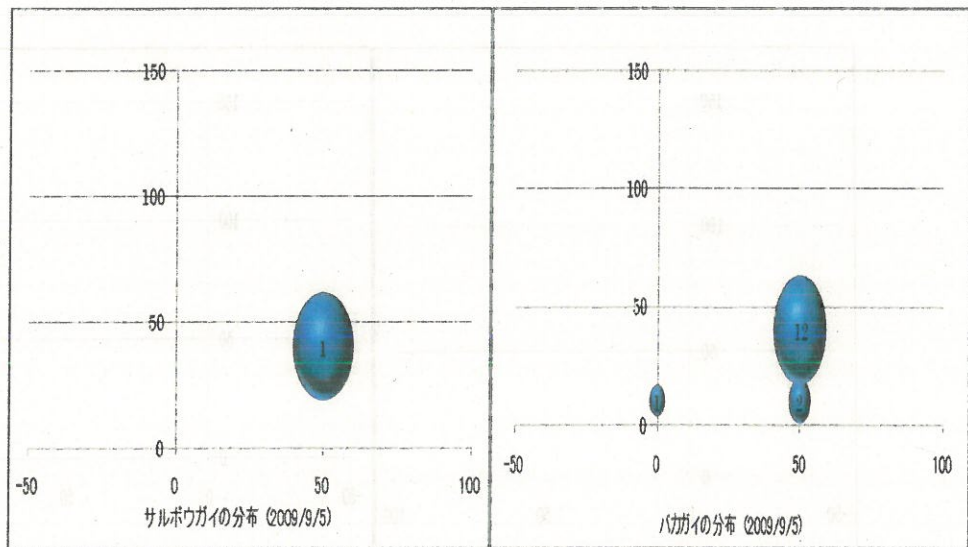
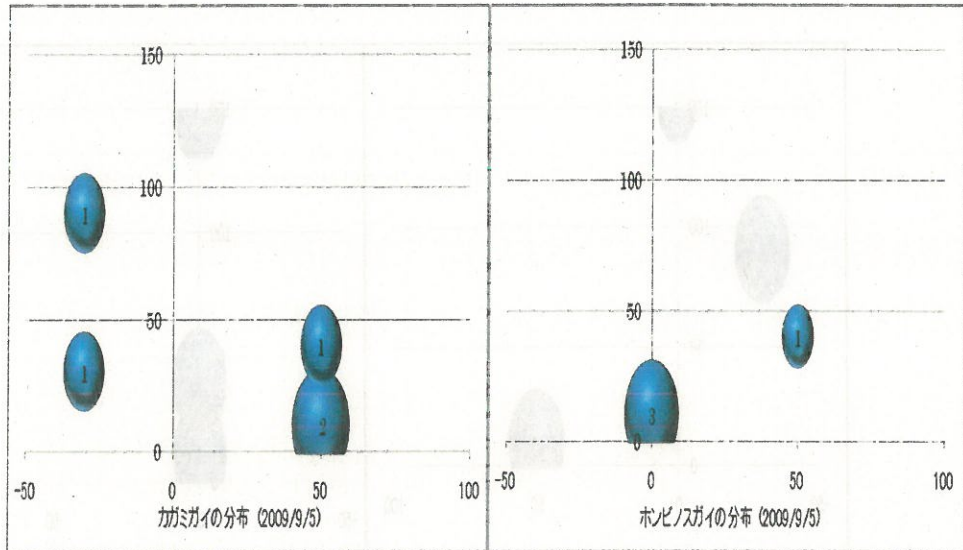


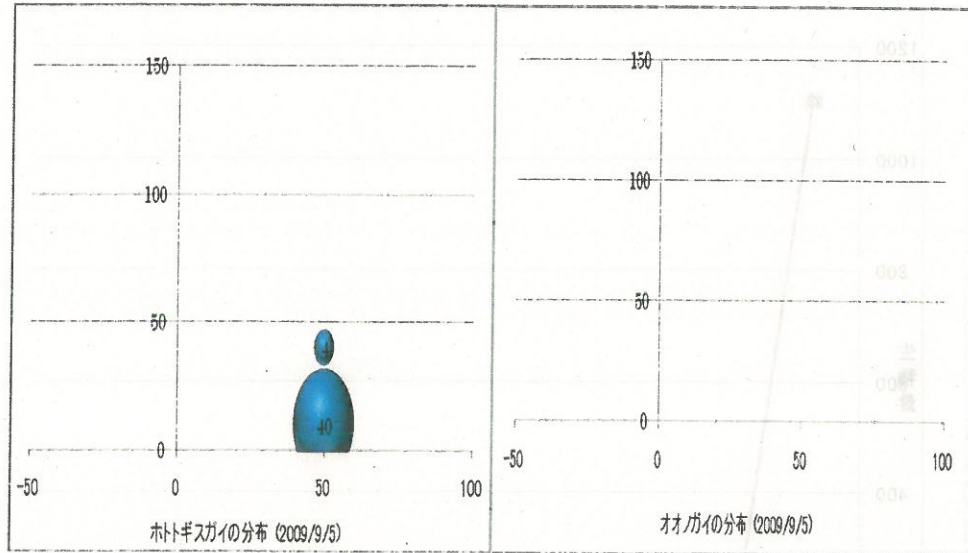
2009年6月7日





2009年9月5日



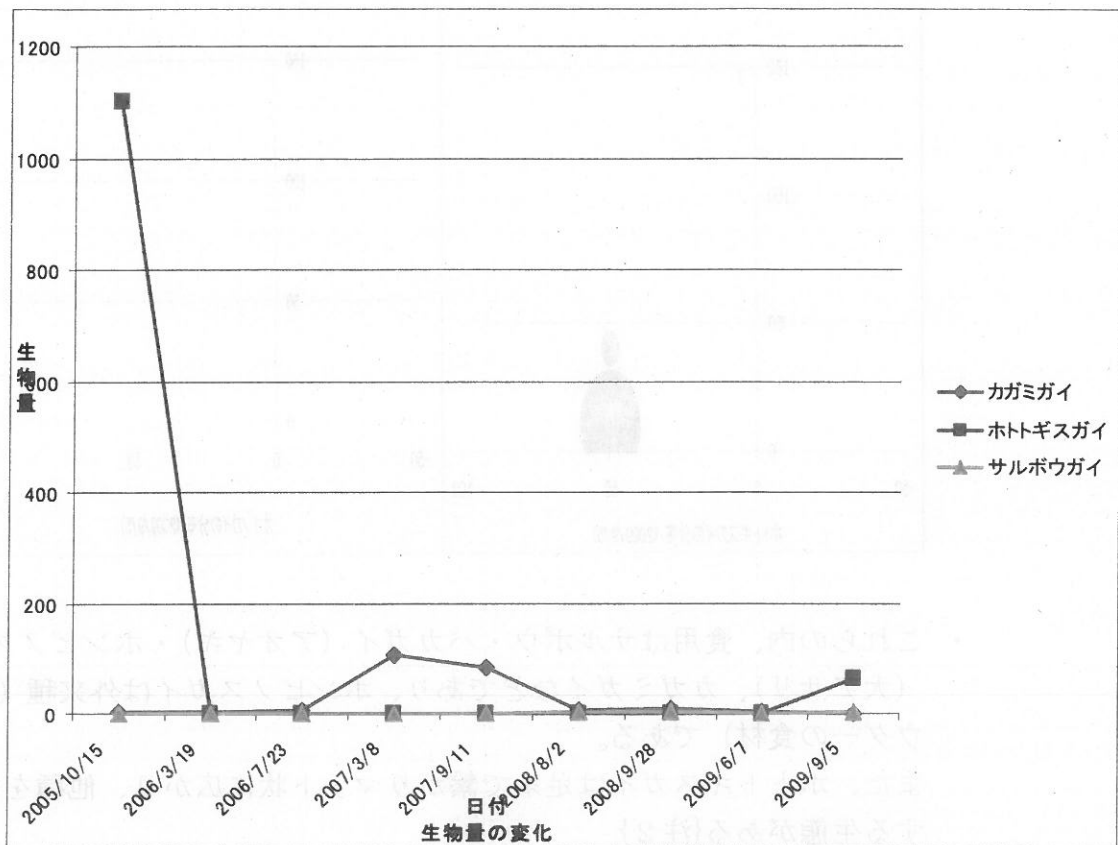


- これらの内、食用はサルボウ・バカガイ（アオヤギ）・ホンビノスガイ（大アサリ）、カガミガイなどであり、ホンビノスガイは外来種（クラムチャウダーの食材）である。  
また、ホトトギスガイは足糸で繋がりマット状に広がり、他種を阻害する生態がある{注2}
- 考察としては、6種とも個体数が少ないが、全体に生物量が多かった2008年度はこれら少数種も採取量が多かった。また、本年度は調査地点に拠る傾向は特に見られなかった。またカガミガイ・バカガイの稚貝が複数個、採取できたが成貝は見つからなかったことから、少数種の生育の困難さが推察される。

そこで、次に経年変化について考察を行った。

[2]H17～H21年度のサルボウガイ・ホトトギスガイ・カガミガイの生物量（個体数×湿重量）変化

種別	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	目録
ホトトギスガイ	0	0	1	1	5	0	1	2	0	2	0	0	0	0	ホトトギスガイ
カガミガイ	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	カガミガイ
バカガイ	0	0	1	0	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	バカガイ
サルボウガイ	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	サルボウガイ
ホンビノスガイ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	ホンビノスガイ



- ・ ホトトギスガイの密集があったことから、[1] {注2} で述べた生態の一部を観察することができた。今回は稚貝が多かったせいかな？特に他の貝類を阻害してはいなかった。
- ・ このグラフでも2007年度にカガミガイが複数個採集されているが1-2地点の2個以外は稚貝である。

そこで、2008年度と2009年度について、ホンビノスガイ・バカガイ・カガミガイ・サルボウガイ・ホトトギスガイの5種について地点毎の出現状況の考察を行った。

[3] 少数5種の出現分布 (個体数)

底生生物の出現状況 2008.08.02

単位(個)

種目	1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	2-5	3-1	3-2	3-3	3-5	計
ホンビノスガイ	2	5	5	1	0	2	1	4	0	0	20
バカガイ	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	3
カガミガイ	5	0	2	0	1	1	0	1	0	0	10
サルボウガイ	0	0	4	0	0	0	1	0	0	0	5
ホトトギスガイ	2	2	0	0	0	0	0	3	0	1	8